

2021/3/18-2

(うと Q 世話し 最大の投資効率? (「投資」の原義? 改題))

両手一杯に物を抱えていて、新しいボールは取れません。

一旦抱えている物を地面に置いた上で、新しいボールをキャッチ (手に入れる) し、それから地面に置いた今迄の物の中から必要な物を抱え直す。

之が物事の自然な動作 (道理 = メカニズム) でしょう。

しかし現代の教育や思潮は、両手一杯に物を抱えた儘、新しいボールを取る方法ばかりを教えているか推奨している様に思われます。

そうして、両手一杯抱えた物を、地面に置く事を「時間の無駄」や「動作の無駄」にカウントして、その無駄を犯さない時間や動作の短縮のことを「効率的」だと称している様な。しかし自分が思うに、それは「効率的」なのではなく、道理の捉え方の、単なる「勘違い」でしかない気がします。

この「効率的」という言葉を「既得権」に置換えてみると分り易いかもしれません。

即ち

「新しい物を手に入れるには、一旦「既得権」を手放し、新しい物をキャッチした上で、既得権の中から、その後も有用な物を取捨選択して抱き直す」

と。

どの道一旦裸にならないと「新しい物は手に入らない」のが、物事の道理 (自律的メカニズム) の様な気が致します。

(それをせずに全てを端折る (「効率」の別名) 事は、却って遠回りする時間の無駄 (結果的な非効率) を招く様です。之を故事では「急がば回れ」と諭 (さと) しております)

この、新しいボールを手に入れる為に、それに先んじて一旦裸になる (捨て身になる) 事を別の言葉で「投資」と言います。

文字通り、新たな資産を手に入れる為に、既存の手持ち「資産 (過去の遺産)」を前もって一旦「投げ出す」事です。

それを古 (いにしえ) の先人達が「(既得) 資産を (再び戻らぬ事に腹を決めた上で、前もって) 投じる」事の短縮形として「投資」と名付けたのではなかろうかと推測しております。

話を元に戻しましょう。

ですので、本当の意味で「新しいものや価値」を手に入れる最も「効率的」手段は、何の事はない「急がば回れ」で、まずは既得権を捨て、それに縛られないフリーハンド (発想や立場) を得た上で、フットワークを軽くし、様々なトライをする機動性を獲得する。

これが、自分のあらゆる経験則に照らし合わせてみた値からは、時間や手間の量的カウントを「無駄から有用 (有効実験数)」という質的カウントに切り替えた場合、手間暇かけない事で、当初は一見効率的に見えたものの、実際には失敗を重ねる無駄な回数合計の時間を勘案すると、当初遠回りに見た迂遠な方法の方が、結果的には「投資効率」が高く「投資効果」

（その最大成果）も良い結果がでる、と言える様な気が致します。

以上は「机上で弾いた数字」ではなく「度重なる失敗の実測値」ですので、生起率は、そこそこあるのでは、とも思っております。

将来、手間暇かけて待っただけの事はあった「かも」
位に、思って戴けると嬉しいです。